

P-Selectin Glycoprotein Ligand-1 (PSGL-1) Expressing CD4 T Cells Contribute Plaque Instability in Acute Coronary Syndrome

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-12-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 喜多村, 一孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032621

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 3011 号	氏 名	喜多村 一孝
審 査 委 員 会	主 査 教 授	北川 一夫	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>急性冠症候群(ACS) をもたらす責任冠動脈粥腫不安定化における P-selectin glycoprotein ligand-1(PSGL-1)発現 CD4 T 細胞の役割を検討した。ACS で急性期に血栓吸引療法を行った連続 48 例(ACS 群)の末梢血、責任冠動脈血、および正常コントロール 48 例(NC 群)の末梢血における CD4 T 細胞をフローサイトメトリー、ローリングアッセイにて、血栓吸引療法で得た ACS 群組織を免疫染色にて解析を行った。NC 群に比較し、ACS 群の CD4 T 細胞は integrin $\beta 2$ ($P<0.05$)、PSGL-1($P<0.05$)が多く発現していた。また、ACS 群では末梢血に比べ責任冠動脈血 CD4 T 細胞は PSGL-1($P<0.001$)が多く発現しており、責任冠動脈粥腫に PSGL-1 陽性 CD4 T 細胞が多く浸潤していた。これら PSGL-1 発現 CD4 T 細胞は P-selectin、E-selectin と結合可能であり、ヒト血管内皮細胞に強く rolling、adhesion した。さらに、これら ACS 群の冠動脈血 CD4 T 細胞は血管内皮細胞にアポトーシスを PSGL-1 発現量依存的に強く誘導し、PSGL-1 中和抗体の前処置で抑制された。</p> <p>本研究は、接着分子 PSGL-1 が細胞障害性の強い CD4 T 細胞の責任冠動脈への浸潤と粥腫不安定化、内皮細胞のアポトーシスをもたらし、ACS 発症に関与している可能性を示した臨床的意義の高い内容であり、学位授与に相当すると判断する。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			